

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 11月 1日

【評価実施概要】			
事業所番号	0170200125		
法人名	社会福祉法人 百合の会		
事業所名	グループホーム オニオンコート		
所在地	札幌市北区百合が原11丁目186番地3 (電 話) 011-774-6821		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年10月29日	評価確定日	平成20年11月14日

【情報提供票より】 (20年10月14日事業所記入)
(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	22 人	常勤	17人,	非常勤 5人, 常勤換算 12.4人

(2) 建物概要	
建物構造	鉄筋 造り
	3 階建ての 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃 (平均月額)	58500円 生活保護35000円 家族対応48000円	その他の経費(月額)	水道光熱費他21,500円 暖房費 (11~3月) 4,500円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (10月 14日現在)			
利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護 1	名	要介護 2	1 名
要介護 3	8 名	要介護 4	5 名
要介護 5	2 名	要支援 2	1 名
年齢	平均 87 歳	最低 77 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関	
協力医療機関名	札幌百合の会病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームオニオンコートは、百合が原公園に隣接した、郊外の新興住宅地に位置する。病院、幼稚園、特別養護老人ホームはじめ各種の老人介護関連事業と隣接し、これらとの緊密な連携と協力関係により、地域との交流、職員教育、災害訓練、栄養管理、などを協同で行い、便宜を共有しあっている。3階建てのビルの3階をグループホームとして使用しているが、広いフロアと大きな窓が、明るく、見晴らしのよい安らぎの空間をつくり出している。近隣の小学校や幼稚園との付き合いが盛んで、利用者をなごませている。年に2回、家族の集りを開いて率直な意見を取り入れている。センター方式を一部取り入れ、関係者の意向や情報を的確に取り入れた介護計画を作成している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
	地域密着を含んだ新しい理念をつくり、評価を運営推進会議の議題に取り上げ、独自の便りを発行し、家族へのアンケートを実施し、介護計画の見直し期間を短縮し、重度化の指針を設け、尿取りパット収納箱への名前記入をやめるなど、前回評価の課題の多くが改善された。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)
	評価表を開示して、全職員に適宜記入を求め、それを管理者がまとめて作り上げた。できたものは施設内で見えるところに陳列し、職員のみならず訪問者、家族、利用者が自由に見られるようにしてある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)
	運営推進会議はほぼ隔月をメドに年6回開催されており、事業計画、利用者の暮らしぶり、自己および外部評価、災害対策、家族懇親会、利用者の喫煙対策、医療連携体制についての説明、などを議題に討議している。活発な意見が出され、利用者の喫煙対策、非常出口の整理など、会議の討議に基づいて改善がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)
	年1回の家族懇親会、およびクリスマス会での家族懇談などの場で率直な意見を聞きだしている。家族懇親会の中では家族のみで話し合う時間を設け、自由な意見交換の場を提供している。出された意見は議事録に残し、職員全員が把握できるようにして、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
	近隣の幼稚園から園児が来訪し、おゆうぎなどを見せてくれる。また、近くの小学校の児童が、紙芝居、楽器演奏、お年寄りのお話の傾聴などに来訪し、またお年寄りが運動会を見に行く、などの交流をしている。施設が実施する盆踊りやコンサートには近隣住民も招き、交流している。町内会への加入も交渉中であるが、受け入れ態勢が十分でなく、実現していない。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価の結果を受けて、地域住民との交流を盛り込んだ、事業所独自の理念を作成した。家庭的な住み慣れた環境での、誇りと生きがいを持った生活を提供する、という内容を柱としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所と玄関に掲示され、申し送りノート、事業計画書などに綴じこまれていて、職員が常時目にしながら、具体的な活動の中に活かされてゆくように図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の幼稚園や小学校とは、園児や児童が来訪したり、ホームから運動会を見学に行ったりなどの交流をしている。施設が実施する盆踊りやコンサートには近隣住民も招き、交流している。町内会への加入も交渉中であるが、受け入れ態勢が十分でなく、実現していない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価表を開示して、全職員に適宜記入を求め、それを管理者がまとめて作り上げた。できたものは施設内の見えるところに陳列し、職員のみならず訪問者、家族、利用者が自由に見られるようにしてある。外部評価の結果は多くの点で改善に役立てられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業計画、利用者の暮らしぶり、自己および外部評価、災害対策、家族懇親会、利用者の喫煙対策、医療連携体制についての説明、などを議題に討議している。活発な意見が出され、会議の討議に基づいて改善がなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北区の担当者とは、必要な連絡や手続きのためにたびたび電話や訪問をして連携している。	○	事務的な接触のみならず、多様な行政サービスを活用するために、親密な連携関係の構築を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には詳細な報告をし、利用者変わったことがあれば随時電話などで報告している。母体事業所が発行する通信「ねぎねぎだより」のほかに、ホーム独自に、簡単ながら、様子を知らせる「GH通信」を発行している。	○	退職者については、訊かれれば答える程度の報告であるが、今後は運営推進会議で報告することを検討中とのことなので、その実現を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族の集りで率直な意見を聞きだしている。家族懇親会では家族のみで話し合う時間を設け、自由な意見交換の場を提供している。出された意見は議事録に残し、職員全員が把握できるようにして、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員との定期的な面談を行い、精神、身体面の悩みを聞いて、離職を防いでいる。職員を固定化して担当利用者との関わりを維持している。離職する職員が利用者に挨拶をする場合もあるが特に公表はしていない。このことで利用者にはダメージを与えているとは考えていない。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人合同の施設内研修会が毎月行われ、勤務上都合のつく職員は全員受講している。外部研修は、経験に応じて優先順位を決めながら、3ヶ月に一人ぐらいの頻度で受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1～2回、北区のグループホーム連絡会の研修に参加して、同業者と交流しているほか、必要に応じて適宜電話連絡で情報交換を行っている。	○	グループホーム連絡会の研修会への参加を増やすとともに、同業者同士の恒常的なネットワークを組織し、一般職員を含む勉強会や相互訪問まで進展させるよう、期待したい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に先立って家族および利用者本人の見学を勧めている。お茶や、時には食事と一緒に過ごし、他の利用者や職員、場の雰囲気に馴染み、十分納得して入居するよう計らっている。入居の当初は家族とも連絡を密にし、個別対応を手厚くし、他の利用者との仲介をするなどして馴染める工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に過ごししながら、調理、洗濯物片付け、縫い物などの家事、年間行事などで経験豊富な利用者の知恵を学んでいる。オリンピックや野球のテレビを見ながら喜怒哀楽をとみにしている。利用者に励まされることも多い。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を一部活用することによって、利用者の思いを読み取っている。家族や入居前の施設から生い立ちや好みの情報を得て理解に役立てている。コミュニケーションの困難なときは話しかけを多くしたり、行動で働きかけたりして意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者は、より多くの情報を収集し、本人、家族の意向を入れた暫定プランを作成している。その後、モニタリング表やアセスメント表で課題をとりあげ、それらをカンファレンスで話し合い個別性を重視した介護計画を完成している。計画書は家族に郵送し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に個人差があるので介護計画は3ヶ月から最長6ヶ月の間、定期的に見直している。モニタリング表などの記録類を参考にして、1ヶ月で見直すこともある。心身機能の変化が生じた場合にはケース会議やカンファレンスなどで話し合い、実情に沿った新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の過ごし方を把握し、一人ひとりの希望に柔軟な対応をしている。必要に応じて受診の送迎や母体である特別養護老人ホームのクラブ活動への参加、買い物など、個人の外出に同行している。	○	将来的にはサービスを加えてのショートステイやディサービスの実施を検討されているので、その進展に期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診先を確認し、希望に沿って対応している。受診の際には、健康状態の情報を提供するなどして、かかりつけ医とは十分な連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について、ホームの指針を作成し入居中の家族と話し合い、全員から同意を得ている。今後は入居時に確認し、本人、家族と早い段階から話し合う予定である。看取りについては主治医と家族との話し合いの場を持ち、その方針に沿って進める方向で確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時の研修に「援助に当たっての職員心得」があり、言葉遣いの禁句や対応について学んでいる。排泄、入浴時などのケアでは他者に分からないように配慮している。収納場所には個人別に色分けの工夫をし、書類等は適切に保管するなど、個人情報の取扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活での束縛を感じないように、一人ひとりの過ごし方を大切にしている。手作りの教材を常に用意しておき、利用者間で文字並べや絵合わせの遊びをしている。外出も本人の気分、表情を察知する中で小人数での支援を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回のおやつづくりの日、月に1回の調理の日を設け、利用者と一緒に、買い物に出かけ、調理をし、共に食べて楽しむ機会をつくっている。食事の作業では利用者に合わせて取り付けた低めのテーブルで、職員と会話を交わしながら、野菜の皮むきや茶碗拭き等をしている。	○	食事では、職員も同じテーブルで一緒に摂る方向で検討されているので、家族的な雰囲気の中で食べる楽しみづくりに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できる体制になっており、希望があれば、午前中や夕方にも対応できる。体調を見ながら最低週2回は入浴できるように支援し、入浴を楽しめるように歌やコミュニケーションで雰囲気をつくっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑づくりや、じゃがいも、とうきび、枝豆などの収穫をして、調理やおやつづくりを楽しんでいる。趣味のフラワーアレンジメント、ショッピング、喫茶店でのおしゃべりなど、それぞれの気晴らしを支援し、少人数で個人に合った楽しみ方を支えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、辺りの景色や花々を見て散策を楽しんでいる。利用者はそれぞれの目的で気晴らしに出かけることが多い。必要な時には職員と2人で外出することもある。冬季にも週に1回はショッピングに出かけており、外食も楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットごとの入口に鈴をつけたり、外に出たがる利用者の居室ドアに音になる工夫をしたりして、出入りに注意している。ホーム事務所前のエレベータに注意し、1階玄関の鍵を9時30まで開け、鍵をかけないケアに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は母体の特別養護老人ホームと隣接の協力病院の訓練の際に参加している。夜間を想定した訓練も消防署の指導のもとで避難誘導などを頻繁に行っているが、ホーム独自の訓練は実施していない。	○	今後、ホームでの出火を想定した訓練を考えていることから、関連機関以外にも住民の協力が得られるホーム独自の実施について、さらなる検討に期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	敷地内の特別養護老人ホームの管理栄養士が作った献立表に沿って、個人の状況に合わせた形態で提供している。食事量、水分量は分かりやすい表記で個人日誌に記録して状態を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院の3階を改造した空間は広く、全体的にゆったりした造りになっている。浴室やトイレは清潔感があり、よく整頓し安全にも配慮されている。居間に飾ってある月ごとの手作りカレンダーはユニットごとに工夫され、利用者と一緒に作る中で、楽しみながら作業を通して手先のリハビリにもなっている。壁には季節感のある作品が程よく飾ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはソファやイスが持ち込まれている居室もあり、ゆっくりくつろげる広さのスペースである。テレビ、馴染みの家具やお気に入りの置物、飾り付けなど、それぞれの居室は居心地よく過ごせるように配置されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。